

教育長 様

校番 093 広島商業 高等学校長
(全日制 課程)**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校
令和5年度 実施報告書****1 学校の教育目標等****(1) 教育目標**

本校は教育目標を「幅広い教養とビジネスに必要な力を身に付け、社会の発展に貢献できる人財を育成する」と定めている。このことについては、4月当初の職員会議で校長から教職員に対して、教育目標を定めた意義等を説明するとともに、定例開催される教科主任会議や各教科会、各種研修会等を通して、共有化が図られている。

また、教育目標については、新しい学習指導要領の趣旨を的確に踏まえ、商業高校を卒業する生徒が高い専門性を発揮し、社会で活躍できる人財となるよう、校務運営会議等を通じて定期的に見直しが行われている。

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

本校では、「多様性を認め合う寛容さを持ち、他者と共生することができる生徒 (Diversity & Inclusion)」や「自分の考えを明確に表現し、他者を巻き込むことができる生徒 (Communication & Collaboration)」、「課題を発見し、解決のために考え抜くことができる生徒 (Critical Thinking & Problem Solving)」の育成を目指している。

そのため、短期(本年度)目標として、「各教科の見方・考え方を働かせ、論理的に考察させるとともに、的確に表現できる力を育成する」と定め、各教科において「本質的な問いを設定するとともに、育成したい資質・能力を見取るルーブリック評価を作成する」とし、パフォーマンス課題の設定及びルーブリック評価の作成を行っている。

育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力についても、4月当初の職員会議で校長から教職員に対して意義等を説明するとともに、定例開催される教科主任会議や各教科会、各種研修会等を通して、共有化が図られている。また、教育目標同様、新しい学習指導要領の趣旨を的確に踏まえ、商業高校を卒業する生徒が高い専門性を発揮し、社会で活躍できる人財となるよう、校務運営会議等を通じて定期的に見直しが行われている。

(3) 学科等の特色

生徒の「個別最適な学び」を充実させるための教育課程を編成している。1年生は、商業科の基礎的科目である「ビジネス基礎」、「簿記」、「情報処理」を全員が共通的に学習し、2年生からは進路希望や適性に応じて選択履修等を行い、生徒の多様な進路希望や適性に応じた学びの選択を可能とするカリキュラムとした。課題発見・解決学習の充実を図るため、「ビジネス基礎」、「E Eプログラム」、「課題研究」を中心とした商業科目とともに、共通教科における探究的な学びを3年生の選択群に設定している。また、変化の激しい社会に柔軟に対応し、高度情報通信社会で活躍するための技術を習得させるため、2～3年次に科目「プログラミング」を設定するとともに、外部機関と連携し、教科の枠を超えた学びを充実させる「フレックス・タイム」を設置し、高度な知識・技術を身に付けさせるなど、生徒の多様な進路選択を実現させ、商業の専門性を高める教育課程を編成した。

2 研究の概要**(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標**

- ① 幅広い教養とビジネスに必要な力を身に付け、社会の発展に貢献することのできる人財育成
- ② 社会が抱える課題を認識し、科学的な根拠に基づいて、その解決を提案することのできる人財育成
- ③ 社会で活用できる最先端のビジネススキルを身に付けさせるための教科横断的な探究活動の充実
- ④ 変化の激しい社会に柔軟に対応し、高度情報通信社会で活躍するためのプログラミング技術の習得
- ⑤ 外部機関との連携を強化し、高度な知識・技術を身に付けさせるための「フレックス・タイム」の導入

(2) 1年後の目指す学校の姿

- ・将来活用できる知識・技術等を確実に生徒に身に付けさせるとともに、課題解決力を備えた生徒を育成する。
- ・対人能力（リーダーシップ、コミュニケーション力、公共心、規範意識など）、自己制御力（意欲、忍耐力、自分らしい生き方や成功を追究する力など）を生徒に身に付けさせるとともに、主体的に計画を立て、粘り強く実行することができる生徒を育成する。
- ・使命感にあふれ、新たな価値を高める教職員集団づくりを目指し、計画的・組織的なカリキュラム・マネジメントの充実を図る。

(3) 令和5年度の目標

ア アウトプット（活動指標）

- ・「課題研究」において重点目標を整理し、身に付けさせたい資質・能力のルーブリック評価が実施されている。
- ・各種ルーブリック評価等を用いて、生徒の資質・能力の伸長が適切に評価されるとともに、個に応じたアドバイスがなされるなど、個別最適な学びが実現されている。
- ・学校教育目標と教科等の目標との関係性についてイメージマップが作成されている。

イ アウトカム（成果目標）

- ・「課題研究」において重点目標を整理し、身に付けさせたい資質・能力のルーブリック評価が作成できている。
- ・広商の教育活動に係るアンケートにおいて、「社会の発展に貢献できる力を身に付けることができる」と回答する教員・生徒の割合が80%以上になっている。

(4) 令和5年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア カリキュラムの核とする教科・科目等名

- 商業科・科目「ビジネス基礎」
- 商業科・科目「E Eプログラム」
- 商業科・科目「課題研究」

イ カリキュラム開発の概要

本校では、教育目標に定める「幅広い教養とビジネスに必要な力を身に付け、社会の発展に貢献できる人財を育成する」ことを目指し、次の3つの資質・能力を生徒に身に付けさせるためのカリキュラムの開発に取り組んだ。

①ビジネスに係る最先端の知識・技術

- ・社会で活用できる最先端のビジネススキル
- ・断片的ではなく、相互に関連付けられた知識・技術

②新しいビジネスを創造する能力

- ・社会が抱える課題を認識し、その解決を提案できる力
- ・科学的な根拠に基づき状況を分析することができる力

③他者と協働してよりよく課題を解決する能力

- ・他者と協働して課題を解決しようとする力
- ・自己の適性を踏まえたリーダーシップを発揮する力

(マクロレベル)

- ・昨年度策定した商業教育の方向性を示した「教育内容の柱」について、現状分析した結果6つに変更しカリキュラムの構築を目指した。(①探究活動 (STEAM教育) の充実 ②プログラミング教育の充実 ③XR教育の充実 ④投資教育の充実 ⑤F T (フレックスタイム) ⑥共通教科の探究群)
- ・昨年度から実施している「フレックス・タイム」の授業では、教科の枠を超え、外部機関との連携による専門性の高い学習を実現した。PCV による平和学習、Inspire High による多様性と価値観ワーク、TAC 専門学校による公認会計士・税理士特別講座、情報専門学校によるITパスポート、先進的な起業家による動画作成、投資教育、XR教育などを行った。さらに、来年度は3学年揃っての実施となり、生徒が自らの将来をイメージし、主体的・自立的に学ぶ内容を考えることで、生徒の個別最適な学びを推進するとともに自己実現（進路実現）につなげることができるように、教科主任会議で意見を出し合いカリキュラム開発を進めた。
- ・共通教科の探究群の教育内容や核となるカリキュラムとの関わりについて教科主任会議で検討し、商業科だけではなく、普通教科についても授業の在り方、授業形態のブラッシュアップを図る。
- ・教務部を中心に昨年度作成したマスタールーブリックについて、今年度、育成したい資質・能力に加えられた「多様性」に対応するルーブリックを追加した。さらに、行事の実施要項等に重点項目を載せ、その項目を意識して取り組むことにより、育成したい資質・能力が高まるように働きかけた。

(ミクロレベル)

- ・6月の校内研修会では、マスタールーブリックを確認し目指す生徒像の共有化を図るために、一人一人の思い描いたロールモデルと広商生が重なるような10か条を作成した。生徒と教育実習生を交えて協議し、多様な意見や生徒の意見を共有しながら協議ができた。
- ・11月の授業合同発表会では、「マスタールーブリックの資質・能力を意識した授業づくり」について協議した。「計画的に実行する力」を育成する場面を各自の経験から思い出し共有した。KJ法を用いてディスカッションする中で、教科の科目同士や教科と行事など教育活動は全て繋がっていることを確認することができた。
- ・1年「ビジネス基礎」、2年「EEプログラム」、3年「課題研究」において、年間2回のルーブリック評価の結果を活用し、担当者ミーティングを充実させ、指導内容や指導方法の改善を図った。
- ・1年「ビジネス基礎」、2年「EEプログラム」、3年「課題研究」は、課題発見・解決学習の核となるカリキュラムである。この3科目の系統性を確保し、段階的に学びが深まっているか、探究的な学びとなっているかについて昨年度再検討し、「教育内容の柱」を軸に14講座から8講座へ変更して、「課題研究」を実施した。
- ・「目標・指導・評価を一体化した授業づくり」を英語科において行った。年間4回の会議を開催し、担当指導主事からの指導を受け、核とするカリキュラムと教科の指導内容との関連付けなどを行った。成果物として、次年度3年生に向けたシラバス、単元毎自己評価シート、単元テンプレート、単元指導計画など、完成度の高いものが作成できた。さらに校内での研究授業を行い、実施した内容と成果について教科主任会議で共有し、他の教科の中でも共有できた。

ウ 校内体制

カリキュラム開発を組織的に行うために、教育課程検討プロジェクト会議（管理職・主幹教諭・教務主任・進路指導主事・商業科主任等を中心としたメンバー）を中心に教科主任会、学年会、分掌会と連携し、実施状況や指導内容を検討し、教育目標の実現に向けてより適切なカリキュラムとなるよう充実・改善を進めた。

具体的には、学科改編が行われて2年目となり、教科主任会議を毎週開催し、昨年度の実施を踏まえて、各教科の実施状況や課題を共有し、意見交換を行い改善策について検討した。

6月と11月の年2回の校内研修会と授業合同発表会を実施した。そして、昨年同様、10～11月を研究授業月間として各教科で課題発見・解決学習の授業実践を行うなど、全教員がPDCAサイクルを意識して参画できる体制を構築した。山口大学の陳内秀樹准教授には昨年に引き続き、校内体制の構築と課題発見・解決学習の推進について指導をしていただいた。県外における他校の実践事例について情報提供を受けるとともに、昨年度からの本校の現状を把握した上で、全教員が参画して行う体制づくりについての指導・助言を受けた。

また、「プログラミングI」については、令和6年度から2年生と3年生において全クラス必修となるため、指導力向上とプログラミング教育の重要性に関する教員の理解を深めるため、外部講師を招聘し研修環境を整えた。同じく、探究的な学習の推進についても、校内研修の開催や外部機関による研修について案内し、受講を促進した。

(5) 学習評価

学習評価については、令和4年度からは、シラバス等を活用した学期ごとの自己評価を実施している。さらに、定期考査の各設問に「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の観点を明示し、事後に分析することで、生徒の観点別の資質・能力の育成状況を見取り、学習内容や指導方法の改善に活かしている。また、3年生の各教科で本質的な問いを設定し、パフォーマンス課題の設定及びルーブリック評価の作成・実施をしている。

教務部と商業教育推進部がプロジェクトの中心となり、「育てたい生徒像」と「育成を目指す資質・能力」が達成できるカリキュラム開発に必要な研修テーマを設定した。6月と11月に実施した年2回の授業研修会では、「広商10か条」を作成し、学校教育目標やマスタールーブリックと教科指導との繋がりを確認することができた。

核とするカリキュラム（1年「ビジネス基礎」・2年「EEプログラム」・3年「課題研究」）では、育成したい資質・能力を見取るルーブリックを作成・修正した。3年「課題研究」については、今年度から自己評価アンケートを実施した。第1回目の自己評価アンケートで「課題発見・解決力」は、レベル3以上が目標値近い73.6%であった。

1年「ビジネス探究」、2年「EEプログラム」で、答えのない問いに仲間と協力しながら考え続けた結果として目標値近い数値となっていると担当者会議で確認した。更に学びが深まるためには外部の方々との連携が必要であると確認して計画を再考しながら進めていくことができた。

(6) カリキュラム評価

本校は令和4年度から情報ビジネス科としてスタートした。社会の実情を踏まえ、本校の現状を分析しながら、次の通りカリキュラムについて評価し、改善に取り組んだ。

1年「ビジネス基礎」2年「EEプログラム」3年「課題研究」においては、定期的に担当者ミーティングを開催し、指導内容と指導方法の工夫・改善を行った。令和6年2月に生徒への広商の教育活動に係るアンケート調査を実

施した。本校の教育活動に対して「幅広い教養を身に付けることができているか」という質問に対しては、昨年度は肯定的回答が93.1%で今年度は94%、「ビジネスに必要となる力を身に付けることができているか」については昨年度肯定的回答が94.4%で今年度92%と昨年度に続き高い結果となった。肯定的回答をした生徒の主な理由としては「FTやビジネス基礎で自分の考えを考えられているから。」「普通科で学べないことが学べるから。(簿記や、ビジネス基礎など)」「EEプログラムなど社会にでて活躍できるような授業があるから」(原文ママ)などが挙げられており、探究的な学びや個別最適な学びを実現するための選択科目の履修によって、幅広い学びができていると実感していることが分かった。しかし、「社会の発展に貢献できる力を身に付けることができる」という質問に対しては肯定的回答が87%と、「貢献することが実感できない」と思っている生徒もいる。大学や地域、企業の方など多様な学びの機会(場)の仕組みづくりが必要であると考えている。

3 令和5年度の成果及び課題

(1) 成果

- ・1年「ビジネス基礎」、2年「EEプログラム」、3年「課題研究」について、マスタールーブリックを基に、各科目で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、その習得状況を見取るルーブリックを修正・作成した。科目を学習する事前(4月)と事後(2月)にルーブリック評価を行い、生徒の資質・能力の習得状況を把握することができた。
- ・2年「EEプログラム」は、ルーブリック評価の全体平均を見ると、レベル3以上が36.8%(4月)から79.5%(2月)に倍増した。毎時間の授業で、単元で意識する資質・能力を確認しながら進めた事によって、資質・能力が向上したと生徒自身が感じていることが分かる。「転換力」や「独創的発想力」について、レベル3以上が80%以上であることから、高いレベルで習得できたと感じていることが分かった。「EEプログラム」では、「社会の課題を自分自身がどう解決できるか?」という視点で考え、解決したい課題を自ら選択して解決策を考案することや、グループワークで他者と協働して考察することで、生徒自身が成長を実感していることが分かった。また、「適応力」は、レベル3以上が1回目より2回目の方が+53.1%と大きく増加した。ビジネスアイデアを考案するために、様々な問いや課題にあきらめずに取り組む経験によって生徒自身が身に付いたと実感し、大きく数値が伸びたと考えている。
- ・3年「課題研究」のルーブリック評価は、昨年度作成し今年度より調査を実施した。4月の調査では、全体の肯定的回答の平均は目標値80%を下回る67.9%であった。2回目は94.5%とほぼ100%に近く、レベル1の生徒が少ない項目が多くあった。1年「ビジネス基礎」2年「EEプログラム」と答えのない問いに仲間と協力しながら粘り強く考えてきた成果を生徒自身が実感していることが分かる。同時に、核となるカリキュラムの系統性も高まっていると考えている。
- ・学校教育目標と教科等の目標との関係性についての取組では、6月に校内研修会と11月に合同授業発表会を開催した。内容は、マスタールーブリックを確認し目指す生徒像の共有化を図るため、一人ひとりの思い描いたロールモデルと広商生が重なるような「広商10か条」の作成を通した。この2回の研修を通して、育てたい生徒像の共有が図れた。研修会は、生徒や他校の先生、教育実習生を交えて実施することができ、多様な意見が出た。「人間の幸せの価値観は人それぞれだということにあらためて考えさせられました」「教員自身も生徒のように変化しながら対応すべき」(原文ママ)などの感想があった。そして、生徒が教職員の中で、他者の意見を聞きながら、自分の意見をきちんと発言でき、全体共有では自ら挙手して発表したりする生徒の成長を見ることができ、現在実施しているカリキュラムの価値を高めることができた。
- ・「広商の教育活動に係るアンケート」では「幅広い教養を身に付けることができている」について昨年度は93.1%、今年度は94%と高い数値となっている。昨年度教育「内容の柱」を作成し、社会で活用できる最先端のビジネススキルや社会が抱える課題を認識し、科学的な根拠に基づき仲間と協力し分析することができる多くの選択科目を設けて個別最適な学びを実現する取組の成果だと考える。
- ・共通教科の探究群の教育内容や核となるカリキュラムとの関わりについて教科主任会議で検討でき、商業科だけではなく、普通教科についても授業の在り方、授業形態のブラッシュアップを図ることができた。

(2) 課題

- ・広商の教育活動に係るアンケート調査では「社会の発展に貢献できる力を身に付けている」は87.0%と、本校の教育目標達成についての3つの指標の中では一番低い結果となった。「社会の貢献になにをすればいいかわからない」、「社会の発展には広い視野が必要だと思う。しかし、広商にはそれが足りていないと思う」など12.7%の生徒が否定的回答をしている。学校運営協議会で「地域の活動に積極的に参加し、地域の方と連携を取り多くの経験や学びを得ることができれば自己肯定感を高め、いずれ社会に貢献していると感じることができる」という意見があったように、多くの方々と一緒に学ぶ機会を設けていく必要がある。さらに、日々の教育活動の取組をフィードバックし、努力や成長を認識させる仕組みづくりが必要である。
- ・3年「課題研究」のルーブリック評価は昨年度作成したが、教職員が思っている以上に生徒が高いレベルの自己評

価をしており、再度、生徒の現状や成長を分析してレベルを修正する必要がある。

- ・教務部を中心に昨年度作成したマスタールーブリックについて、行事の実施要項等に重点項目を載せ、その項目を意識して取り組むように働きかけたが、ルーブリック評価の自己評価を次回の取組に生かせるように担当分掌がフィードバックを行っていく必要がある。

4 令和6年度の研究目標及び取組内容

(1) 令和6年度の研究目標

ア アウトプット（活動指標）

- ・「ビジネス基礎」、「E Eプログラム」、「課題研究」等の系統性が整理され、それぞれの科目で身に付けさせたい資質・能力が明確になっており、資質・能力の習得を見取るためのルーブリックが活用されている。

イ アウトカム（成果目標）

- ・「ビジネス基礎」において、「主体性」「計画実行力」を肯定的評価する生徒の割合が80%以上になっている。
- ・「E Eプログラム」において、「独創的発想力」を肯定的評価とする生徒の割合が80%以上になっている。
- ・「課題研究」において、「課題発見・課題解決力」と「論理的思考力」を肯定的評価とする生徒の割合が80%以上になっている。

(2) 令和6年度のカリキュラム改善の内容及び校内体制

ア カリキュラム改善の概要

教育目標に定める「幅広い教養とビジネスに必要な力を身に付け、社会の発展に貢献できる人財を育成する」ことを目指すとともに、令和5年度から育てたい生徒像を「多様性を認め合う寛容さを持ち、他者と共生することができる生徒」、「自分の考えを明確に表現し、他者を巻き込むことができる生徒」、「課題を発見し、解決のために考え抜くことができる生徒」に変更し、その育成を目指していくカリキュラム開発に取り組む。

- ・「ビジネス基礎」（1年）、「ビジネス探究」（2年）、「課題研究」（3年）における課題発見・解決学習の充実と系統性の確保
- ・3年「課題研究」における教育内容の充実
- ・共通教科における課題発見・解決学習の授業実践
- ・プログラミング教育の充実

イ 校内体制

教育課程検討プロジェクト会議を中心に教科主任会議などと連携し、本校の教育目標や育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力を達成できるよう、実施状況や指導内容を分析・検証し、より適切なものとなるようカリキュラムを開発する。核となるカリキュラムとの関連付けや、科目の系統性を進めていくために、学校運営協議会等でカリキュラム開発について外部有識者と連携することによって、社会に開かれた教育課程を編成していく。

- ・教育課程検討プロジェクト会議から教科主任会議を中心としたカリキュラムの充実・改善
- ・探究学習コーディネーターの設置（最新の知識・技術を提供する人材の確保、市場ニーズや現状の把握）
- ・各学年に探究学習担当者を配置（外部機関や探究学習コーディネーターとの連携・推進）
- ・年間2回（6月・11月）の校内研修、11月の公開研究授業、各教科・科目による授業実践